



# 令和7年度 水稻生育診断情報 No. 3

(令和7年7月15日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL: 0748-46-4391)

(次回は7月下旬の予定)

## 現在の生育状況

- ◎作況調査(5月10日移植)の「みずかがみ」、「コシヒカリ」では、草丈は平年よりやや長く、莖数は平年より少なく、葉色は平年並。幼穂形成期は、「みずかがみ」では平年より1日早い6月29日、「コシヒカリ」では平年より2日早い7月1日であった。
- ◎県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、概ね平年並~やや早く幼穂形成期を迎えている。
- ◎気温が高く推移しており、早生品種では、幼穂形成期から出穂期までの日数が平年より短くなり、出穂期が早まる見込み。

## 管理のポイント

- ◎生育状況はほ場により異なるので、穂肥施用にあたっては、必ず幼穂を確認するとともに、生育(葉色・莖数)に応じて、適期に適量を施用する!
- ◎全量基肥(一発肥料)栽培においても、生育に応じて追肥を施用する!
- ◎出穂前後各3週間は常時湛水を行う! 深水にせず水深3cmから5cmの浅水で管理する! 中干し後は水もちが悪いほ場が多く、こまめな水管理を行う!
- ◎ほ場周辺のヒエ等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りを徹底し、斑点米被害の軽減を図る!

## 1 気象の経過と予報

### (1) 気象の経過(彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
6月	上旬	低い	やや低い	かなり少ない	かなり多い
	中旬	かなり高い	高い	多い	かなり多い
	下旬	かなり高い	かなり高い	やや多い	かなり少ない
7月	上旬	かなり高い	かなり高い	かなり多い	かなり少ない

※気温 <±0.5℃:平年並、±0.5~1.0℃:やや高い(低い)、±1.0~2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)

※日照時間 <±5hr:平年並、±5~10hr:やや多い(少ない)、±10~15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)

※降水量 <±10mm:平年並、±10~20mm:やや多い(少ない)、±20~30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

### (2) 地温、土壌窒素の推移

- 日平均地温は5月下旬から6月中旬にかけては平年よりやや低かったが、6月16日から7月7日にかけて高く推移した。移植後の5月12日~7月7日までの積算地温は、平年と比べて53.5℃高くなった。
- 6月30日時点で、無窒素区の水稲地上部窒素吸収量は、平年と同程度であった(2025年:3.25kgN/10a、平年:2.91kgN/10a)。土壌中のアンモニア態窒素残存量も同程度であり(2025年:0.41mgN/乾土100g、平年:0.32mgN/乾土100g)、水稲地上部窒素吸収量と土壌中アンモニア態窒素残存量を合わせた地力窒素発現量は、平年と同程度とみられる。

### (3) 近畿地方1か月予報(7/12~8/11) (大阪管区气象台7月10日発表)

- 向こう1か月は晴れの日が多い見込み。
- 平均気温は高い見込み(高い確率70%)。
- 降水量は、県北部は平年並か少なく、県南部はほぼ平年並の見込み。
- 日照時間は、県北部は平年並か多く、県南部はほぼ平年並の見込み。

### (4) 近畿地方3か月予報(7月~9月) (大阪管区气象台6月25日発表)

- 向こう3か月の平均気温は、高い見込み(高い確率60%)。
- 月別の気温は、7月、8月、9月それぞれ高い確率50%。
- 向こう3か月の降水量は、ほぼ平年並の見込み(平年並の確率40%)

## 2 生育状況

【農業技術振興センター水稲作況調査(7月10日時点)による。表1および後掲グラフ参照。】

- 草丈は「みずかがみ」、「コシヒカリ」ともに平年よりやや長い。
- 茎数は「みずかがみ」、「コシヒカリ」ともに平年より少ない。
- 葉色は「みずかがみ」、「コシヒカリ」ともに平年並。
- 主幹葉数は「みずかがみ」、「コシヒカリ」ともに平年よりやや多い。
- 「きらみずき」は前年と比べて、草丈は同等、茎数は多く、葉色は薄く、葉数は多い。
- 幼穂形成期は「みずかがみ」では平年より1日早く、「コシヒカリ」では平年より2日早い。

表1 令和7年(2025年)水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m <sup>2</sup> )				葉色(SPAD値)				主幹葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
6/20	みずかがみ	48.8	43.6	112	41.8	366	481	76	495	43.9	41.4	106	39.4	10.1	9.7	0.4	10.4
	コシヒカリ	48.7	44.7	109	44.2	394	514	77	495	41.8	42.3	99	41.4	9.5	9.5	0.0	9.7
	きらみずき	44.3	-	-	36.2	373	-	-	374	41.9	-	-	37.9	9.7	-	-	9.4
6/30	みずかがみ	67.7	62.7	108	65.5	481	530	91	510	42.8	41.5	103	41.9	11.6	11.1	0.5	12.0
	コシヒカリ	65.8	63.7	103	65.6	499	586	85	547	41.4	41.2	100	39.8	11.0	10.7	0.3	11.1
	きらみずき	60.0	-	-	55.5	519	-	-	443	40.4	-	-	40.9	11.3	-	-	10.8
7/10	みずかがみ	86.0	80.6	107	83.9	464	499	93	495	41.6	41.2	101	43.5	13.1	12.5	0.6	13.4
	コシヒカリ	86.9	80.3	108	80.2	478	546	88	534	39.0	37.8	103	36.8	12.3	11.9	0.4	12.2
	きらみずき	68.6	-	-	67.9	504	-	-	440	36.0	-	-	40.8	12.4	-	-	11.7

※移植日: 5月9日(播種日: 4月18日)。栽植密度: 18.5株/m<sup>2</sup>、植付本数: 3本/株

※「みずかがみ」「コシヒカリ」の平年は過去10年平均(平成27~令和6年)の値。

※「きらみずき」は令和6年から有機質肥料を用いて調査開始

### 7月10日現在の生育状況



みずかがみ



コシヒカリ



きらみずき

表2 水稻作況調査 生育ステージ（7月15日時点）

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種：「みずかがみ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	6月29日	6月30日	1日早い	6月29日
出穂期	未	7月23日	—	7月21日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月1日	7月3日	2日早い	7月2日
出穂期	未	7月27日	—	7月24日

品種：「きらみずき」

生育期	本年	平年	較差	前年(参考値)
幼穂形成期	7月13日	—	—	7月14日
出穂期	未	—	—	8月5日

※移植日：5月9日(播種日：4月18日)。栽植密度：18.5株/m<sup>2</sup>、植付本数：3本/株

※「みずかがみ」「コシヒカリ」の平年は過去10年平均(平成27～令和6年)の値。

※「きらみずき」は令和6年から有機質肥料を用いて調査開始

### 3 今後の管理

#### (1) 生育に応じた穂肥の施用

- 移植日やほ場条件により生育ステージが異なるため、幼穂長をしっかりと確認し、幼穂形成期の生育に応じて、穂肥の施用時期および施用量を調整する。
- 登熟期における栄養不足を回避するため、穂肥は適期に必要な量を確実に施用することが重要である。

#### ◇夏季の高温に備えた穂肥の施用

- 追肥不足や地力が低いほ場では登熟期間の葉色が低下しやすく、背白粒、基部未熟粒の発生が助長され、出穂後の気温が高温になった場合、白未熟粒の発生割合が高くなる。特に、幼穂形成期の生育が標準量を超えて籾数過多のほ場で顕著である。
- そのため、高温が予想される場合は、全量基肥(一発肥料)栽培でも出穂の11日前頃(幼穂形成期の14日後)までの葉色が薄い(葉色版で4.0(葉緑素計値36)以下)ほ場では、玄米品質の低下防止のための追肥(出穂11日前から出穂4日前までの間に1～2kg N/10a)を施用する。

※環境こだわり栽培では化学肥料窒素成分の上限4kg/10aに注意。

※出穂4日前(早い穂が出始める頃)以降の追肥は食味を落とすため、施用しない。

※葉いもちや倒伏の発生が懸念されるほ場は施用しない。

### ◇「コシヒカリ」の穂肥

#### ■「分施肥体系」の場合

- ・ 出穂 18 日前（幼穂形成期の 7 日後＝幼穂長 1mm 確認 7 日後）と出穂 11 日前（幼穂形成期の 14 日後）の分施肥体系を基本とし、幼穂形成期の生育が標準量であれば、1 回目と 2 回目の施用量は均等分施（2 kgN/10a×2 回、「2－2 体系」とする）とする。
- ・ ただし、幼穂形成期の生育が標準量を超えた（株張りが大きく、葉色が濃い）場合、籾数過多による品質低下が心配されるため、2 回目の穂肥施用に重点を置き、1 回目に 1 kgN/10a、2 回目に 3 kgN/10a の分施肥体系（「1－3 体系」とする（表 3））。

表 3 「コシヒカリ」の穂肥施用基準

幼穂形成期の生育状況			穂肥施用方法(施用量の単位は 10a 当たり窒素量)
株張り (60 株/坪植の 茎数)	葉色		
		葉緑素計値 (葉色板値)	
大 (25 本/株以上)	濃	35(3.8)以上	出穂 18 日前（幼穂形成期 7 日後）に 1 kg、 出穂 11 日前（幼穂形成期 14 日後）に 3 kg 施用
	淡	35(3.8)未満	
標準 (20～25 本/株)	濃	35(3.8)以上	出穂 18 日前（幼穂形成期 7 日後）に 2 kg、 出穂 11 日前（幼穂形成期 14 日後）に 2 kg 施用
	淡	35(3.8)未満	
小 (20 本/株以下)	濃	35(3.8)以上	出穂 20～21 日前(幼穂形成期 4～5 日後)に 2 kg、 出穂 13～14 日前(幼穂形成期 11～12 日後)に 2 kg 施用
	淡	35(3.8)未満	

#### ■「全量基肥(一発肥料)栽培」の場合

- ・ 幼穂形成期の茎数が多く（茎数の目安：1 株当たり 25 本以上）、籾数過多が予想されるほ場では、出穂 11 日前頃（幼穂形成期の 14 日後）から出穂 4 日前（早い穂が出始める頃）までに追肥を 1～2 kg N/10a 施用する。
- ・ また、出穂 11 日前頃（幼穂形成期の 14 日後）までの葉色が淡いほ場（葉色の目安：葉色板 4（葉緑素計値 36）以下）でも、登熟期の栄養不足が予想されるため出穂 11 日前から出穂 4 日前（早い穂が出始める頃）までに追肥を 1～2 kg N/10a 施用する。

### ◇「きらみずき」の穂肥

- 「きらみずき」は有機質肥料を施用することから、1 回目を幼穂形成期（幼穂長 1 mm）の 1 週間前頃と、2 回目を 1 回目の 2 週間後（幼穂形成期の 1 週間後頃）が施用の適期である。
- 以下の施用時期の目安を参考にほ場を確認し、穂肥を施用する。
- 葉いもちが発生するなど穂いもちの発生が懸念される場合は施用時期を遅らせるなどの対応を検討する。

施用時期	移植時期 (5月10日移植)	1回目穂肥 7月10日頃	2回目穂肥 7月24日頃
	(5月20日移植)	7月14日頃	7月28日頃
追肥施用量	それぞれ有機質肥料で窒素成分 3 kg/10a (2回分施 合計窒素成分 6 kg/10a)		

※農業技術振興センター（近江八幡市）における「きらみずき」（5/10 移植、中苗、H28～R5 年）の出穂期データを基に施用時期を推測しているため、今後の天候や地域によって施用時期が異なる可能性があります。

### 【参考】

令和7年産「きらみずき」の栽培者向け情報(滋賀県ホームページ)  
「きらみずき」の栽培研修会資料などが掲載されています。

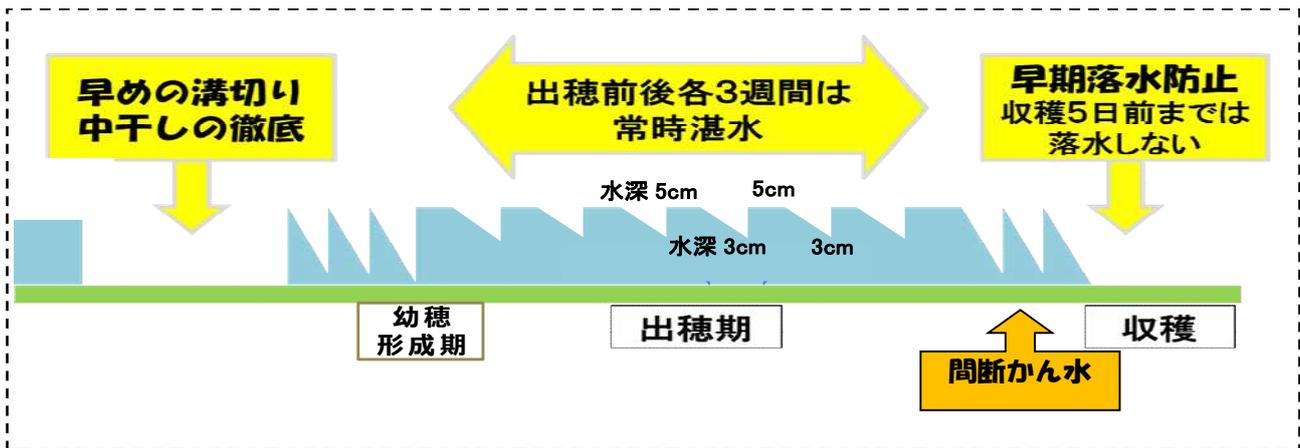


<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/ryutsuu/341725.html>

## (2) 適正な水管理

### 《出穂前後各3週間の常時湛水》

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成を行うことができず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う。
  - 湛水管理はカドミウムの吸収抑制にも有効である。
  - 常時湛水管理にあたっては、常に深水にならないように、また、水を切らさないように、水深3cmから5cmの浅水で管理する。
- ※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



## (3) 病虫害防除

7月8日発表の「病虫害発生予報第6号」参照

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5552089.pdf>



### ① イネいもち病 (葉いもち、穂いもち) (発生時期: 遅い、発生量: 平年並)

- 葉いもちは、穂いもちの伝染源となるため、発生を認めたら薬剤を散布する
- 穂いもちは、ほ場の状況 (水稻の生育やいもち病の発生状況) をよく確認し、適期に防除する。
  - ・粉剤、液剤(水和剤・乳剤等)は穂ばらみ期～出穂期に散布する。
  - ・穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
  - ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループの薬剤を連用しない。
- 環境こだわり栽培の場合は使用可能成分数を超過しないように注意する。

【BLASTAM(ブラスタム)】

BLASTAMはアメダスの降水量、日照時間、風速から葉の湿潤時間を推定し、気温と葉の湿潤時間の組み合わせで、いもち病の感染に好適な条件となっているかどうかを判定するモデルです。

令和7年(2025年) BLASTAM 結果										
		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月1日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	○4
6月5日	木	-	-	-	-	-	?	-	-	-
6月6日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月10日	火	-	-	-	●	●	-	-	-	-
6月11日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月13日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	日	●	●	-	-	●	-	-	-	-
6月16日	月	-	-	-	-	-	-	●	-	-
6月17日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	?
6月19日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	月	○2	-	-	-	○3	○2	-	-	-
6月24日	火	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	-	-
6月25日	水	○2	○2	○2	-	○2	○2	○2	-	-
6月26日	木	-	-	-	-	-	-	○3	-	-
6月27日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月3日	木	-	-	-	-	-	-	○2	-	-
7月4日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月5日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月6日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月7日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	水	-	-	-	-	-	-	?	-	-
7月10日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月11日	金	?	?	?	?	?	?	?	?	?
7月12日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月13日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]

- : 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。)
- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
- 2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
- 3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外)
- 4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- ?: 判定不能

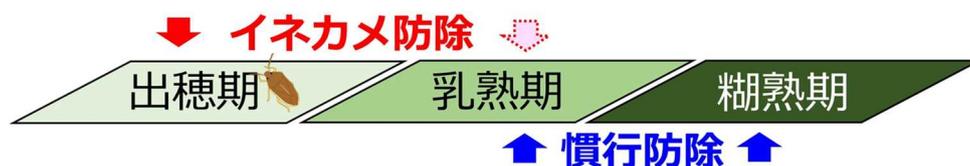
## ②紋枯病（発生時期：やや遅い、発生量：平年並）

- 前年に発生が多かったほ場では特に注意する。
- 防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂 20 日前の発病株率が 15～20%以上。
- 病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。
- 粒剤施用の場合は必ず湛水状態とし、畦畔等からの漏水防止に努めるとともに、散布後 1 週間は落水やかけ流しはしない。

## ③斑点米カメムシ類（発生時期：平年並、発生量：やや多）

→ **7月9～10日時点の調査で発生量が多く、今後の情報に注意してください！**

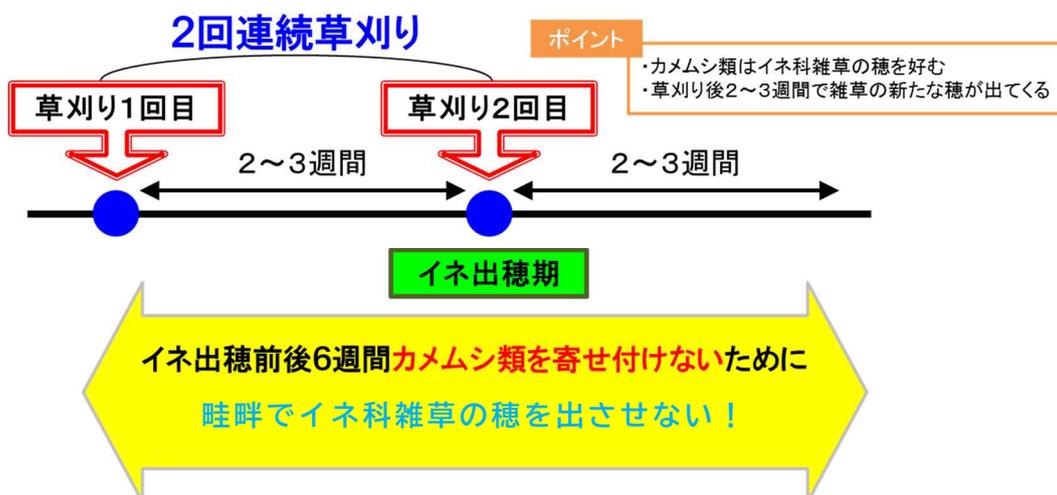
- イネの出穂 2～3 週間前と出穂期の畦畔 2 回草刈りは効率的である。なお、畦畔雑草地などの除草を 7 月上旬に広域的に行った場合、その後も畦畔雑草地のイネ科雑草が出穂しないように適正に管理する。
- 水田内にヒエなどのイネ科雑草が生えている場合は、速やかに除去する。
- ほ場周辺の畦畔や雑草地にアカスジカスミカメの発生が多い場合は、乳熟期頃（出穂 7～10 日後）に防除する。
- 穂揃前に斑点米カメムシ類が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂 16 日後を中心に出穂 10～20 日後）に防除する。
- イネカメムシの発生が多いほ場では、出穂期に薬剤防除する。
- 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。散布時期は乳熟期頃（出穂 7～10 日後）とするが、一部薬剤は散布時期が異なるので注意する。



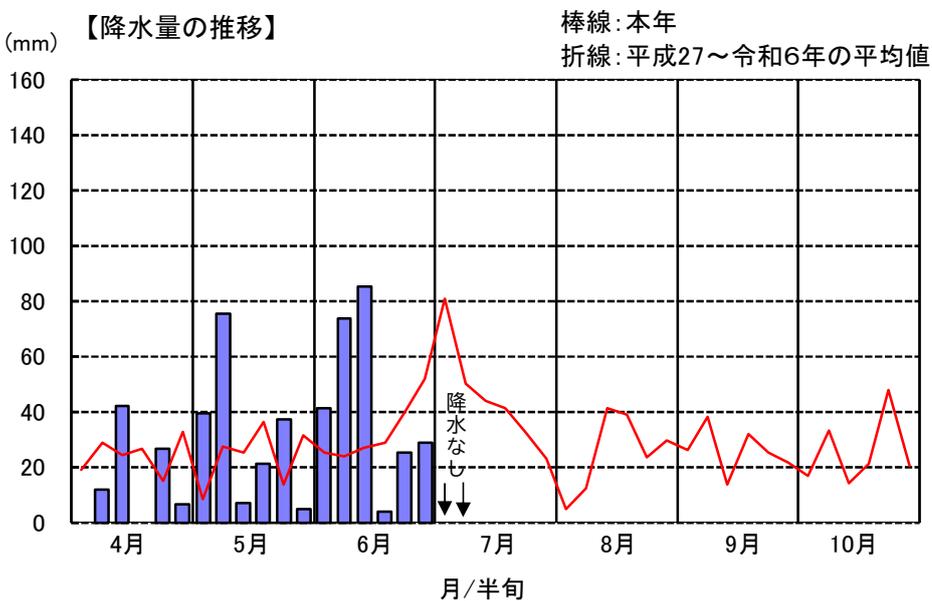
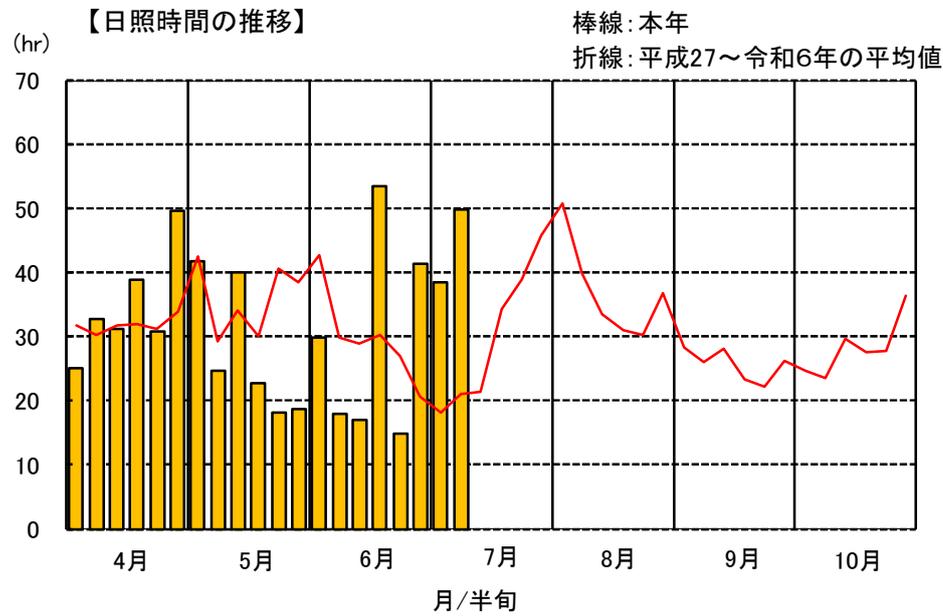
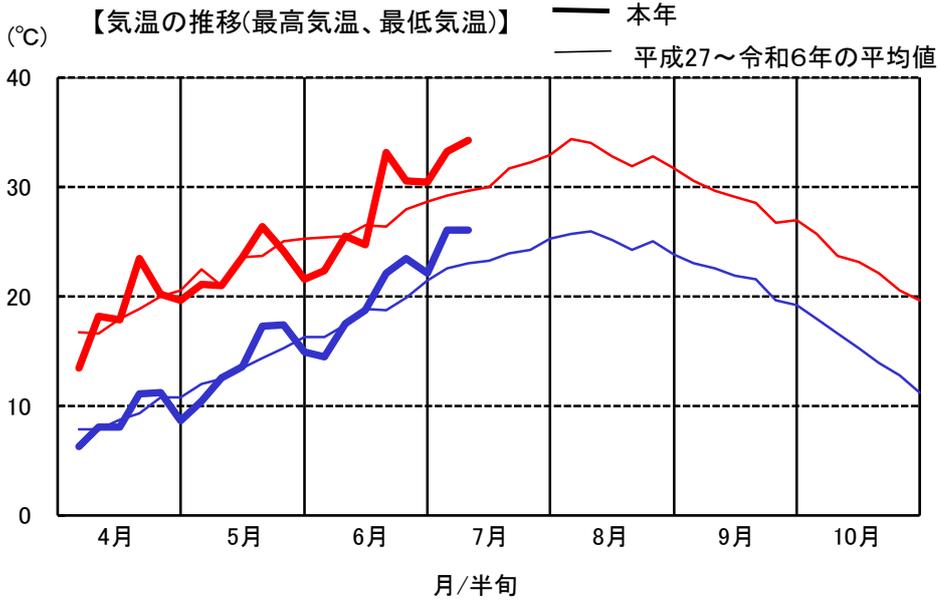
### ◇斑点米カメムシ類対策

#### 畦畔 2 回連続草刈りでカメムシ防除

- ①出穂 2～3 週間前と出穂期の 2 回連続で、畦畔の草刈りを行う。
- ②畦畔でイネ科雑草の穂を出させない。
- ③地域で話し合い、一斉に行う。



# 令和7年(2025年) 水稲作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



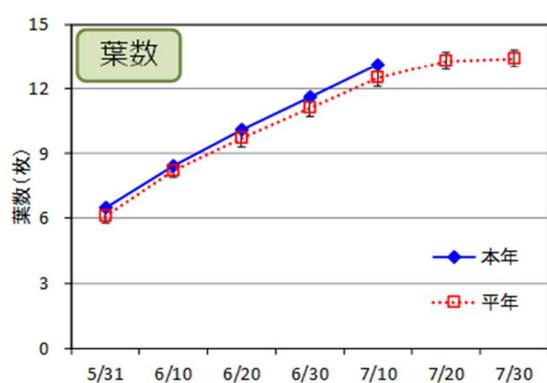
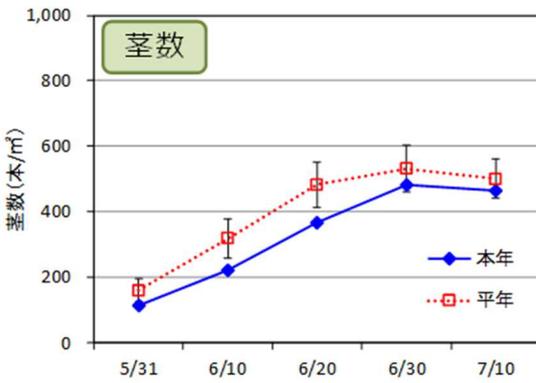
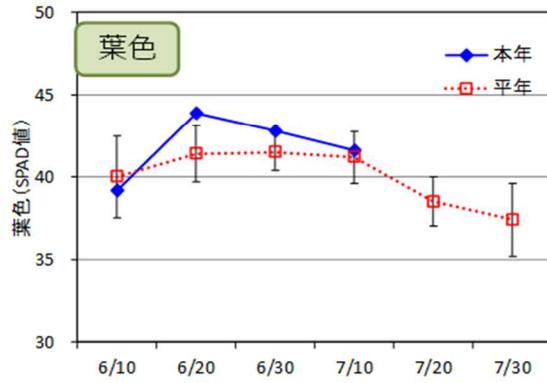
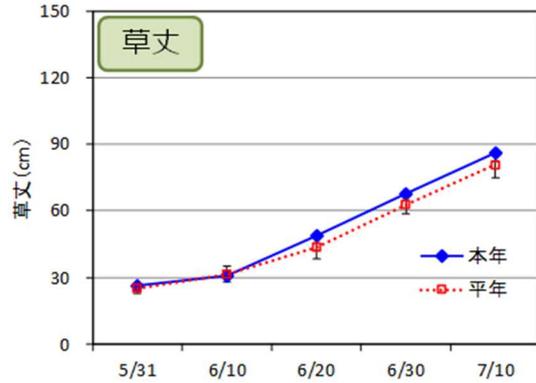
注) 平年は平成27~令和6年の平均値。 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

# 令和7年(2025年) 水稲作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

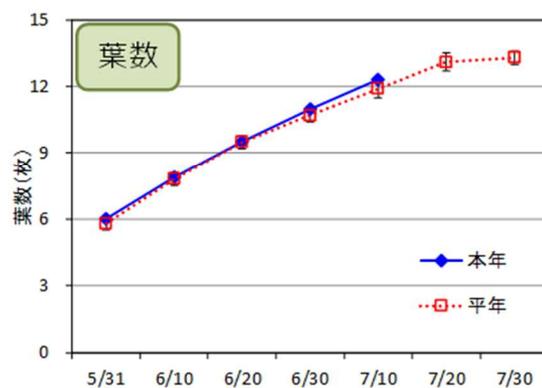
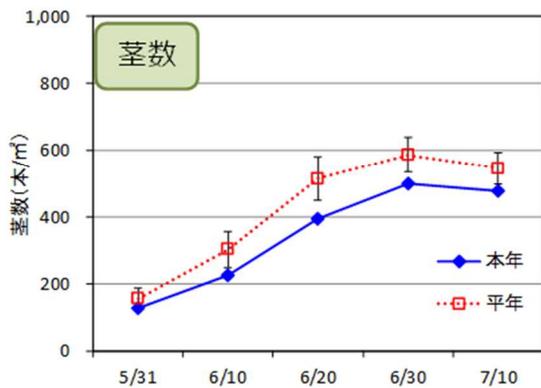
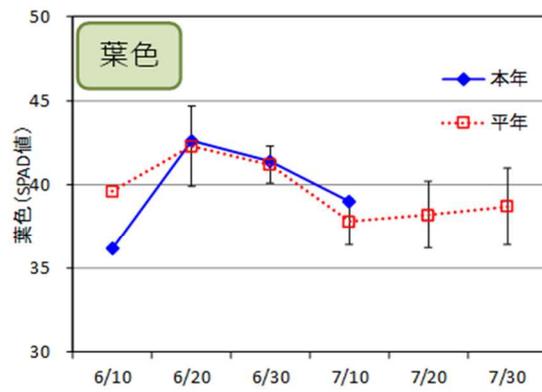
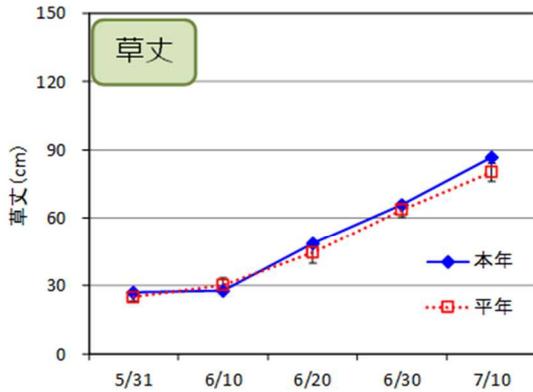
## みずかがみ

播種: 4月18日、移植: 5月9日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



## コシヒカリ

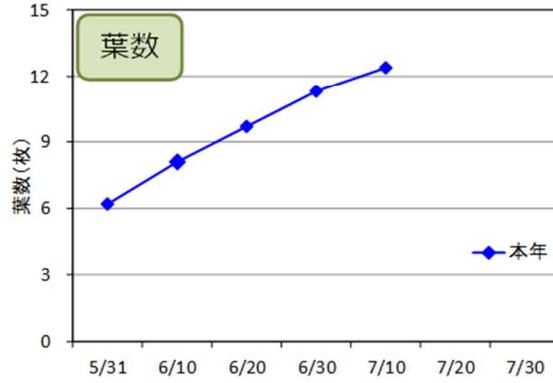
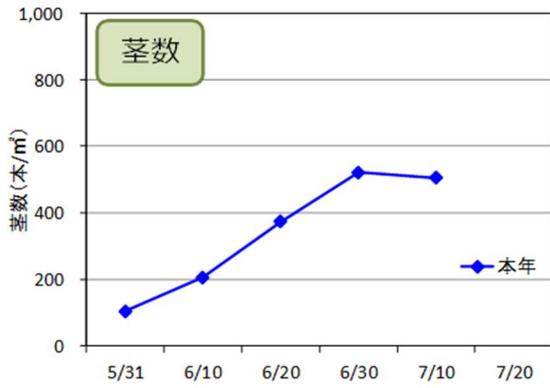
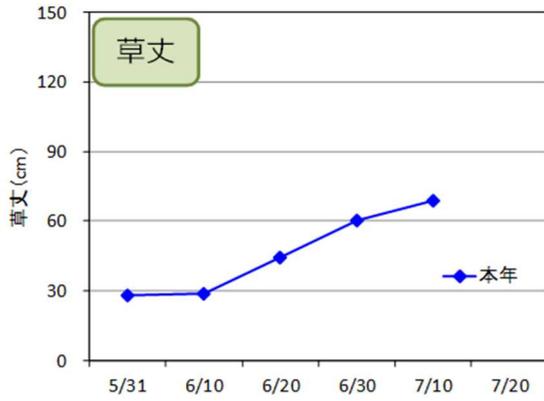
播種: 4月18日、移植: 5月9日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



注)平年は過去10年(H27年~R6年)の平均値。

# きらみずき

播種: 4月18日、移植: 5月9日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



## ～農業情報の配信について～

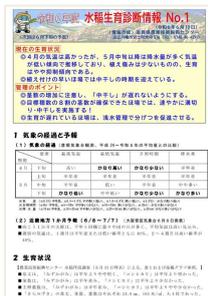


- 滋賀県では、「防災・防犯等の情報をはじめとする滋賀の安全・安心のための情報やイベントのご案内など」を、ご希望の方へ情報配信しています。
- 台風等の気象災害や病害虫の発生が懸念される際に農業技術情報や農業に関するイベントのご案内など農業者向けの情報も配信しています。農業に関するタイムリーな情報収集手段の一つとして、是非ご利用ください。
- 詳しいサービスの説明、ご利用上の注意及び利用規約は下記の滋賀県ホームページをご覧ください。

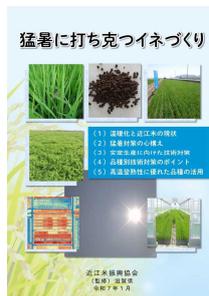
滋賀県ホームページ「しらが（しらせる滋賀情報サービス）ご案内」  
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/ict/306374.html>



## 収量・品質確保のための参考資料



水稲生育診断情報  
(滋賀県 HP)



猛暑に打ち克つイネづくり  
(近江米振興協会 HP)



水田土づくりマニュアル  
(滋賀県 HP)

### 【参考サイト】

農業技術振興センター  
 病害虫防除所  
 彦根地方气象台  
 早期天候情報

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>  
<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>  
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/souten/>



農業技術振興センター



病害虫防除所



彦根地方气象台



早期天候情報



Instagram始めました

滋賀県農業技術振興センターの  
公式アカウントです  
各研究部門・農業大学校・  
農業革新支援部から  
旬の情報やお知らせを  
お届けします  
フォローをお願いします！

(写真は配信内容イメージです)



NOUGI\_SHIGA

各研究部門  
農業革新支援部



SHIGA\_NOUDAI

農業大学校



滋賀県農業技術振興センター